

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑤児童期(6~12歳)の生活と発達

- ◆ 発達課題においては、達成できる子もいれば、達成できない子もあり、そこから不登校や非行に繋がってしまうこともあるので、利用している子の発達段階に合わせた保育を行うようにしたいです。学童期の特徴としては、1年生は幼児期との切り替えの時期、中学年は他者比較とグループをつくる時期、高学年は自立と依存のはざまという時期で、当クラブでは1~6年生までの子どもが利用しているので、それぞれの時期に応じた対応をしていきたいです。
- ◆ 発達課題とは社会に適応するために必要なものであり、それぞれの発達段階ごとにある発達課題を理解すると、子どもの心の特徴や問題の意味が分かり、適切な対応方法が見えてくると思います。特に学童期の特徴を理解し、その課題を克服するプロセスには個人差があることを心に留め、子ども一人一人の支援につなげていくように努めていきたいです。
- ◆ エリクソンの「人間は生涯に渡り発達し続ける」という言葉が心に残りました。人間は生まれてから死ぬまで色々な意味で発達していきます。発達段階ごとの課題を学んだことで、心の特徴や問題の意味を理解することによる年齢に適した対応が必要になり、具体的に一つ一つ丁寧に説明していくことが大切だと改めて思うことができました。子どもに寄り添った支援をしていきたいと思います。
- ◆ 自分の目からは問題行動として見えてしまう子どもの行為も、発達心理学的に見た場合はその年齢の発達段階においては当然という場合があるのだと新しい視点をもつことができました。特に「学童期の特徴」は、前段の認知発達段階の理論を踏まえたうえでお話を聞くと、腑に落ちることばかりでしたので、とても興味深く拝聴しました。最後に参考作品として紹介された本や映画も新たな視点で見たいです。
- ◆ 発達段階ごとに発達課題があり、それを理解すると子どもの心の特徴や問題の意味が分かり、適切な対応方法が見えてくるのが分かりました。子どもと大人の境目は難しいですが、エリクソンの理論では、8つの段階に区分すると重要人物が母親や両親から仲間集団へと増えていくことが分かりやすかったです。私たちが関わる学童期は、子どもの才能を発見し、励まし、適切に指導する親や第三者の存在が重要であると学ぶことができました。